

平成25年度 事業報告書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

学校法人 東京音楽大学

平成25年度 学校法人東京音楽大学 事業報告書

目 次

第一 法人の概要

1. 設置する学校等	1
2. 沿革	2
3. 定員、学生・生徒・園児数	2
4. 学校法人役員等	2
5. 教職員数	3

第二 事業の概要

総括	3
重点施策	3

第三 項目別概要

1. 人事	3
2. 施設整備	4
3. 入試・広報活動	4
4. 大学、大学院	
(1) 学生募集	4
(2) 教育課程	5
(3) 演奏活動	5
(4) 三大学連携事業及びACTプロジェクト	6
(5) 学生支援	7
(6) キャリア支援	7
(7) 国際交流	8
(8) 大学院	9
5. ファカルティ・ディベロップメント (FD)	11
6. 自己点検・評価	11
7. 教員研究費	12
8. 地域連携	12
9. 後援会、校友会等との連携	13
10. 附属図書館	13
11. 附属高等学校	14
12. 附属幼稚園	14
13. 附属音楽教室	14
14. 附属民族音楽研究所	15
15. 財務報告	
(1) 決算の特徴	15
(2) 財務の概要	15

第一 法人の概要

1. 設置する学校等

東京音楽大学

大学院音楽研究科
(博士後期課程)

音楽専攻

大学院音楽研究科
(修士課程)

器楽専攻

鍵盤楽器 弦楽器 管打楽器 室内楽

声楽専攻

独唱 オペラ

作曲指揮専攻

作曲 指揮

音楽教育専攻

音楽教育 音楽学 ソルフェージュ

音楽学部音楽学科

器楽専攻

ピアノ ピアノ演奏家コース
ピアノ演奏家コース・エクセレンス
チェンバロ オルガン
ヴァイオリン ヴィオラ チェロ
コントラバス ハープ
クラシックギター
フルート オーボエ クラリネット
ファゴット サクソフーン
ホルン トランペット トロンボーン
チューバ ユーフォニアム
打楽器

声楽専攻

声楽 声楽演奏家コース

作曲指揮専攻

作曲 (芸術音楽コース)
作曲 (映画・放送音楽コース)
作曲 (ポピュラー・インストゥルメン
ツコース)
作曲 (ソングライティングコース)
指揮

音楽教育専攻

応用音楽教育コース
実技専修コース



附属図書館

附属高等学校

全日制課程音楽科

声楽専攻 器楽専攻 作曲専攻
音楽総合コース

附属幼稚園

附属音楽教室

附属民族音楽研究所

2. 沿革

明治40年 5月	東洋音楽学校設立（神田区）
大正13年11月	豊島区雑司が谷（現南池袋）に移転
昭和22年 5月	財団法人東洋文化学園と改称
昭和24年 3月	東洋高等学校（音楽科）開設
昭和25年 2月	東洋幼稚園開設
昭和26年 3月	学校法人東洋文化学園認可
昭和29年 2月	東洋音楽短期大学設置認可
昭和38年 2月	東洋音楽大学設置認可
昭和44年 8月	名称変更認可 学校法人東洋文化学園を学校法人東京音楽大学に改称 東洋音楽大学を東京音楽大学に改称 東洋高等学校を東京音楽大学附属高等学校に改称 東洋幼稚園を東京音楽大学附属幼稚園に改称 東洋音楽学校を東京音楽学校に改称
昭和45年 3月	東洋音楽短期大学廃止認可
昭和51年 7月	東京音楽学校廃止認可
平成 5年 3月	東京音楽大学大学院音楽研究科修士課程設置認可
平成25年10月	東京音楽大学大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程設置認可

3. 定員、学生・生徒・園児数

（平成25年 5月 1日現在の人数）

	入学定員	収容定員	入学(園)者	在籍者
大学院音楽研究科修士課程	70	140	73	158
音楽学部音楽学科	310	1,240	355	1,474
附属高等学校音楽科	70	210	61	190
附属幼稚園	—	150	53	112
音楽教室	—	—	17	70

4. 学校法人役員等

（平成25年 5月 1日現在）

役員	理事長 鈴木 勝利	理事 (学長) 野島 稔
	理事 佐々木 正峰 佐々木 亮	高祖 敏明 保倉 裕
	丸山 恵一郎 野本 正平	原山 耕造
	監事 吉田 恭治 福島 啓充	
評議員	鈴木 勝利 丸山 恵一郎 野本 正平 大谷 康子	
	坂本 紀男 鈴木 信五 鷺見 加寿子 西村 朗	
	広上 淳一 釜洞 祐子 三浦 捷子 山本 孝	
	菊地 麗子 坂崎 則子 原山 耕造 小村 久米夫	
	在間 聡子 稲葉 良太 野町 義人	
東京音楽大学長	野島 稔	
東京音楽大学副学長	野本 正平	堀 了介
大学院音楽研究科長	野島 稔	
附属図書館長	坂崎 則子	
附属民族音楽研究所長	池辺 晋一郎	
附属高等学校長	野本 正平	
附属幼稚園長	坂本 紀男	
附属音楽教室長	村上 隆	

5. 教職員数

(平成25年5月1日現在)

大学	専任教員 124人	非常勤教員(含助手) 299人	専任職員 74人
大学院		非常勤教員 4人	
附属高校	専任教員 11人	非常勤教員 34人	専任職員 1人
附属幼稚園	専任教員 8人	非常勤教員 8人	専任職員 1人
附属音楽教室		非常勤教員 10人	
附属民族音楽研究所	専任研究員 1人	非常勤教員 3人	

第二 事業の概要

総括

本学では、音楽大学として教育研究の質を高め、本学で音楽を学ぶ学生・生徒の意欲の向上と充実感を支援し、進路への意識向上を図るための諸施策を展開した。

(1) 教育課程

学部においては、初年次教育の充実、専攻間の卒業単位数の差異の解消、各専攻の特色に応じた授業科目の設置、などを狙いとした新カリキュラムが平成25年度からスタートした。旧カリキュラムから新カリキュラムへ支障なく移行できるよう、運用面の諸作業を行った。

また上智大学との学生間交流協定の締結に伴う単位互換制度は益々好評であり、両大学で選抜された学生は、相互の大学の特色ある授業科目を受講することができた。

大学院においては、修士課程の志願者及び入学者が増加していることから、平成25年度より入学定員を45人から70人に改定した。また平成25年5月に文部科学省に申請した大学院博士後期課程が、同年10月に文部科学大臣から正式に認可され、平成26年4月から開講することになった。

(2) キャリア支援

本学の教育目標に沿った考えに基づき、自ら社会と連携できるたくましい音楽家を育成するために、今年度は本学教授と音楽業界の著名人による「エンロールメント・マネージメント講座」を実施した他、長野県信濃町での実践を通して、コンサートの企画や運営を学ぶ「文化力発信プロジェクト」、ドイツの青少年オーケストラに2週間参加して、人間的、音楽的向上を目指す「バイエルン州立青少年オーケストラプロジェクト」、就職のための基礎講座（8回）特訓講座（32回）を実施した。

第三 項目別概要

1. 人事

(1) 学長選考

現学長の任期が平成26年3月に到来することから、学長選考を厳正に行った結果、次期学長として野島稔学長を再任した(任期は平成26年4月から3年間)。

(2) 人事計画留意点

人件費総額を削減するため常勤、非常勤ともに新採用・昇格を必要最小限にとどめることとするが、学生にとって魅力的で、質の高い教育を提供できる教員を配置することが急務であり、計画的で適切な新陳代謝を念頭に進めた。

しかし、教員数についてはここ10数年来、学生数の減少に対応できておらず、本学経営の健全化と本学の永続的発展のためには、放置できない問題であり、今後の課題となっている。

- ① 教員について
専任教員：大学部門では124名で前年比同数。法人全体では2名増。
非常勤教員：大学部門では324名で前年比11名増。法人全体では6名増。
- ② 職員について
採用：2名。契約職員として採用。
専任職員：大学部門では74名で前年比3名増。法人全体では1名増。

(3) 研修会

- ① 平成25年4月9日
新任教職員研修会
出席者19名
- ② 平成25年4月23日、26日
教職員研修会
「ハラスメント防止対策」「入学者募集」他
出席者246名
- ③ 平成26年1月8日
FD・SD研修会
「キャンパスハラスメントの防止」

2. 施設整備

整備計画に基づき、主に各機器の更新工事を行った。ランニングコスト・メンテナンスコスト・各委託管理コスト等の見直しを行い、経費削減の推進を行った。台風の関東直撃、年明けの大雪被害、各設備機器の老朽化（特にB館・C館・図書館）などによるメンテナンスに対応した。

- (1) 目白台グラウンド
目白台グラウンドは利便性を図るため、隣接の土地（333㎡）を購入した。
- (2) 空調工事
平成25年8月～9月にかけて、J館2階レッスン室・研究室の空調更新第3期工事を行った。
- (3) その他
J館2階の空調更新工事と同時に、J館2階3階間の音漏れを防止するため、天井内に防音材吹付施行を行った。
K館4階の教員室1室を事務室2室に改修した。またK館5階に多目的に利用可能な1室を増築した。
また、避難訓練を実施し、防災倉庫の整理と防災用品の充実を図った。

3. 入試・広報活動

本学及び付属高等学校への入学志願者数の増加を図り、また、各種音楽コンクールへの参加学生・生徒を支援するため、新たに特別入試対策室を設置した。平成25年度は、初めてオープンキャンパスと進学相談会を実施した。実際にレッスンを受け、在学生から情報を得るなどにより本学の魅力をアピールした。

4. 大学、大学院

(1) 学生募集

今年度新たに弦管打専攻における実技優秀者を選抜するために、「弦管打楽器優秀者特別選抜試験」を設けた。

- ① 夏期受験講習会
講習期間 平成25年7月26日～7月30日 受講者数 416人

② 指定校推薦入学試験 試験期間 平成25年11月17日	受験者数	28人
③ 弦管打楽器優秀者特別選抜試験 試験期間 平成25年11月17日	受験者数	24人
④ 冬期受験講習会 講習期間 平成25年12月23日～12月27日	受講者数	455人
⑤ 平成26年度大学入試センター試験 試験期間 平成26年1月18日～1月19日 目白大学と共同実施	受験者数	750人
⑥ 付属高等学校からの推薦入学試験 試験期間 平成26年1月22日	受験者数	63人
⑦ 平成26年度一般入学者選抜試験 試験期間 平成26年2月16日～20日	志願者数 受験者数 合格者数 入学者数	422人 416人 314人 239人
⑧ 平成26年度＜声楽・器楽＞特別選抜試験 試験期間 平成26年3月22日～24日	志願者数 受験者数 合格者数 入学者数	44人 37人 25人 17人

(2) 教育課程

① 教職課程

教職課程担当教員と連携し、学生指導の改善、向上を図った。教育実習、介護等体験については事前指導を重ね、ガイダンスや指導法の授業において学外講師を招き、実践的な指導を行った。介護等体験の事前指導は、東京都社会福祉協議会において、東京都のモデルケースとして報告されるなど注目されている。また、実習校を教職担当教員が視察することにより、連携を強め、教育内容の向上を目指した。

教員採用試験については年3回の特別講座を行い、1次合格者に対しては、面接等2次試験対策としてきめ細かな指導を行い成果をあげた。

また教員採用試験と介護等体験の実際の体験談を、直接学生に聞かせることにより、学生同士、また卒業生との交流を通して、教職への理解を深める一助とした。

② 上智大学との単位互換協定に基づく学生交流

本学の授業19講座を、上智大学の10人の学生が受講した。また本学の学生は上智大学の授業のうち、春学期16科目を15人、秋学期9科目を9人がそれぞれ受講した。

(3) 演奏活動

① 演奏会

平成25年度は、毎年開催している本学主催演奏会7件の他に、これまでピアノ部会主催で行っていた「ピアノ演奏会～ピアノ演奏家コース成績優秀者による～」(トッパンホール)が加わり、8件全ての演奏会が盛況に終了した。

特別演奏会として「V. ホロデンコ ピアノリサイタル」と「A. チュマチェンコ ヴァイオリン演奏会&マスタークラス」を本学100周年記念ホールで開催し、世界的に活躍している演奏家の演奏を、多くの本学関係者が聴き満席となった。



ヴァディム・ホロデンコ氏



アナ・チュマチェンコ氏

外部団体主催の依頼演奏会では、平成25年4月から「ベーゼンドルファー東京主催 ランチタイムコンサート」が加わり、ピアノ演奏家コースの学生には演奏の機会が増えた。

② 2013年度第12回 東京音楽大学コンクール

平成25年度は、管打楽器部門と弦楽器部門を対象として実施した。それぞれの部門で5人の入賞者を選び、第1位～3位に賞金と賞状、入選者には賞状を授与した。

③ 招聘者による公開レッスン等

学生が本学のキャンパスで、世界の一流の音楽家からレッスンが受けられるように、招聘者による個人レッスン・公開レッスンを行った。平成25年度は16人を招聘した。具体的な目的は以下の3点である。

- ・ 西洋音楽発祥の地で活躍中の演奏家等を招聘することにより、文化的背景の理解と実技とをリンクさせた教育を行う。
- ・ 学内で通常行われているレッスン・授業の検証につなげ、本学の教員自身が世界に通用する指導プログラムの構想を練る動機付けにする等、教員にとってのFDとする。
- ・ 一流の演奏家と学生との交流を促し、音楽を通じた国際的ネットワークの形成をする。



指揮公開レッスン(ボリス・ベルキン先生)

(4) 三大学連携事業及びACTプロジェクト

① 三大学連携事業

平成21年度選定文部科学省「大学教育充実のための戦略的三大学連携支援プログラム」の支援期間が終了したため、本年度は各大学の教務予算によって連携事業を実施した。

取組名称：音大連携による教育イノベーション

音楽コミュニケーション・リーダー養成に向けて

連携大学：本学（代表校）、昭和音楽大学、神戸女学院大学

② ACTプロジェクト

ACTプロジェクト（音楽キャリア実習）として、学生をホール、Jロビーコンサート、エリアコンサート、サイバーの4チームに編成し、音楽業務の実体験となる活動を行った。



千葉県文化会館（ホールチーム）



南池袋 区民ひろば（エリアチーム）

（5）学生支援

- ① 東日本大震災（平成23年3月11日発生）により被災した学生の被害状況に応じて、引き続き学費の免除などの必要な措置を講じた。
被災学生、生徒に対する支援状況は「資料8」参照
- ② 学生相談室をはじめ医務室、学生支援課等において、日頃の悩みや問題を訴える学生が年々増加している。平成25年度に学生相談室に来た人数は82人（学生の他、保護者、教職員を含む）延べ331件の面接を行った。
- ③ 学業成績が優秀な学生・生徒、音楽活動に極めて優秀な成績を修めた学生・生徒に対し、奨学金制度を実施している。平成25年度は74人の学生・生徒に対し、奨学生として褒賞した。

（6）キャリア支援

- ① 文化力発信プロジェクト（Spread-Project）
アートマネジメント能力を発揮するための「経営力」「企画力」「行動力」を育成し、企画書の書き方、予算の組み方、接遇などの実践的ノウハウを学ぶ。音楽を総合的に創造する力と、音楽家である前に一人の人間として社会に出て行く力を養成する。
具体的な活動として長野県信濃町との連携により、演奏会などの企画・運営を行い、地域社会における文化芸術振興活動のノウハウを学んだ。



信濃町宿舍



総合会館（3班）

- ② ドイツ バイエルン州立青少年オーケストラ交流プロジェクト
バイエルン放送交響楽団のメンバーが主たる指導陣である、バイエルン州立青少年オーケストラの練習と演奏旅行に、今年度は弦楽器約10名の学生が2週間参加して、日本ではできない人間的、音楽的な研磨を積み、音楽技術の向上を目指した。



バイエルン青少年オーケストラ ①



バイエルン青少年オーケストラ ②

③エンロールメント・マネジメント講座

「8日間で知る、音楽プロフェッショナルの心得 仕事の裏技」と題して、今年度は教育者であり音楽家である本学教授と、音楽業界を裏で支えている著名な方々、また長野県信濃町町長を特別講師として迎え、全8回の講座を開催した。



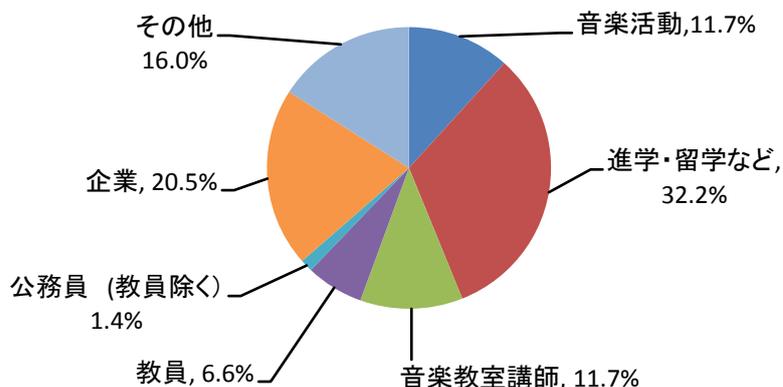
日フィル 山岸氏 VS 広上教授 (テーマ:オーケストラとドラッカー)

④就職特訓講座・就職基本講座

現在の企業が求めている「協調性」「行動力」「国際性」は、合奏やレッスン等を通して、他大学より強いものを本学では身に付ける事ができる。

本講座は、学生が音楽を高めることで身につけてきた潜在的な能力を、より実践的かつ社会的に通用するものに押し上げることを目的に開講した。

⑤卒業生の進路(平成26年3月 学部卒業生351人の割合)



(7) 国際交流

① 短期留学

本学学部生及び大学院生を次のとおり派遣した。

- ・ モーツァルテウム国際サマー・アカデミー (7月・8月中の2週間)
 - 声楽 3人
 - ピアノ 2人
 - 伴奏 1人
 - 弦楽器 3人 (ヴァイオリン)
 - 管・打楽器 2人 (フルート1人・打楽器1人)
- ・ ハノーファー音楽・演劇・メディア大学 (10月・11月の2ヵ月)
 - 弦楽器 1人 (ヴァイオリン)
- ・ ギルドホール音楽院
 - ピアノ 1人 (9月～11月の3ヵ月)、3人 (10月の3週間)
- ・ リュエイク＝マルメゾン地方音楽院 (5月の3週間)
 - 管楽器 1人 (ファゴット)



ギルドホール音楽院 (ローナン・オホラ先生)



リュエイユ=マルメゾン地方音楽院

- ② 留学奨学生特別英語クラス (5月第2週～7月第1週の水・金)
短期留学奨学生を対象とした英語の集中講座を開き、留学先での英語のレッスンに備えた。

③ 研修旅行

平成26年3月後半から4月初旬まで、研修旅行A・Bを行った。

Aコース(ピアノ中心) : シベリウス・アカデミーにてレッスンを受講し、ミュージックセンターにて演奏会を行なった。またギルドホール音楽院にてレッスンを受講した。

Bコース(声楽中心) : リスト音楽院・ハノーファー音楽・演劇・メディア大学・ウィーンでレッスンを受講した。またウィーンの老人ホームで演奏会を行った。



シベリウス・アカデミー (エリック・タヴァスティアエルナ先生)



ウィーン (コンラート・リヒター先生)

④ 留学相談

留学希望者を対象に随時相談を受け、必要に応じて提出資料に関する指導等を行った。

⑤ その他

入学試験に関する海外からの問い合わせは、過去に比べて増えてきている。

(8) 大学院

① 修士課程の入学定員・収容定員の改定

前年度の文部科学省への届出により、修士課程の入学定員及び収容定員が平成25年4月1日に改定された。各専攻の入学定員及び収容定員は以下のとおり。

器楽専攻36人 (25) 声楽専攻21人 (10) 作曲指揮専攻5人 (4)
音楽教育専攻8人 (6) 計70人 (45)
平成25年度収容定員140人 (90) () 内数字は前年度の定員数

② 博士後期課程の設置認可

平成25年5月29日付で文部科学省へ申請した大学院音楽研究科音楽専攻に係る課程の変更が、同年10月31日付で文部科学大臣から認可され、平成26年4月1日に博士後期課程が設置されることとなった。設置認可の内訳は以下のとおり。

音楽専攻（1専攻）、入学定員3人、収容定員9人、標準修業年限3年
学位：博士（音楽）、博士（音楽教育学）、博士（音楽学）

- ③ 博士後期課程の設置準備
理事会の下に設置された「大学院教育の改善・充実に関する検討会」及びその下部組織として設置された「大学院教育の改善・充実に関するワーキンググループ」（平成24年7月～平成25年12月）は、博士後期課程の設置構想を樹立し、その早期実現を果たした。また平成25年7月1日に博士課程設置準備室が設置された。
- ④ 博士課程委員会と大学院課の設置
研究科委員会規程の一部改正及び博士課程委員会規程の制定により、平成25年11月6日に博士課程委員会（委員長 研究科長、21人の委員で構成）が設置された。この委員会は、博士後期課程の研究教育を推進し、円滑な運営を図ることを目的として設置されたもので、同委員会の議決をもって研究科委員会の議決とすることができる。
平成26年4月1日付で、博士課程設置準備室と教務二課の大学院事務室を統合し、大学院課が設置されることとなった。
- ⑤ 平成26年度大学院修士課程入学試験
平成25年11月22日（金）～24日（日）
- | | |
|------|------|
| 志願者数 | 103人 |
| 受験者数 | 97人 |
| 合格者数 | 81人 |
| 入学者数 | 78人 |
- ⑥ 平成26年度大学院音楽専攻博士後期課程入学試験
平成26年2月19日（水）～22日（土）
- | | |
|------|-----|
| 志願者数 | 15人 |
| 受験者数 | 15人 |
| 合格者数 | 8人 |
| 入学者数 | 8人 |
- ⑦ 平成26年度大学院科目等履修生入学試験
平成26年2月20日（木）～21日（金）
- | | |
|------|-----|
| 志願者数 | 32人 |
| 受験者数 | 27人 |
| 合格者数 | 26人 |
| 入学者数 | 26人 |
- ⑧ 平成25年度ティーチング・アシスタント
ティーチング・アシスタントは、優秀な大学院修士課程の学生に対し、指導教員の指導の下に、学部学生等に対する助言や実習、演習等の教育補助業務を行わせ、大学教育の充実と指導者としてのトレーニングの機会提供を図り、これに対する手当での支給により、大学院学生の処遇の改善に資することを目的とした制度である。
平成25年度は、応募者11名中6名の大学院学生をティーチング・アシスタントとして採用した。
- ⑨ 平成25年度大学院オペラ研究発表を次のとおり実施した。
試演会「フィガロの結婚」
平成25年10月11日（金）本学100周年記念ホール
試演会「愛の妙薬／リゴレット／夕鶴／黄金の国 等」
平成25年10月14日（月）本学100周年記念ホール



「フィガロの結婚」



「黄金の国」

5. ファカルティ・ディベロップメント (FD)

個々の教員のスキルアップを図るとともに、教員全体の組織的な教育力の向上・発展・成長を図るため、FD活動を推進している。

平成25年度は、前年度に引き続き、FD委員会による次の事業を実施した。

① 満足度アンケートの実施

4月9日のガイダンス時に、新入生を除く全学生に大学の施設面での満足度アンケートを行い、結果を冊子にまとめた。

また学生の要望に対する回答を、事務局長名で大学HP内の学生サイトに掲載した。

② 授業Bアンケートの実施

前回、クラス授業と個人レッスンと2つに分けてアンケートを行ったが、今回は授業とレッスンとの中間形態である演習系の授業に絞り、授業Bアンケートとして実施した。結果は報告書にまとめ、専任教員全員に配付した。

③ 大学院アンケートの実施

3月20日に大学院修了生を対象としてアンケートを行い、結果をパンフレットにまとめた。大学院アンケートでは、院生は学部生より主体的な学習を行っていることを考慮し、回答は選択肢ではなく自由記述のみにした。

④ FD研修会の実施

6月3日に前回に引き続き「発達障害について」と題して、特別支援教育士の竹内吉和氏を招聘し、講演会を開催した。また1月8日には「キャンパス・ハラスメント防止」について、21世紀職業財団の北上眞理子氏を招聘し、講演会を開催した。

⑤ FD通信の発行

「東京音大FD通信」を19号から22号まで4回発行し、全教職員へ配付し、FD意識の涵養に務めた。

6. 自己点検・評価

平成25年度は、自己点検評価委員全員が以下の通り5班に分かれ、日本高等教育評価機構が定める認証評価新基準に基づいて「自己評価」の内容を分担・執筆し、「自己点検評価書」を作成した。

1班…基準1「使命・目的等」

- 1-1 使命・目的及び教育目的の明確性
- 1-2 使命・目的及び教育目的の適切性
- 1-3 使命・目的及び教育目的の有効性

- 2班…基準2「学修と教授」
 - 2-1 学生の受入れ
 - 2-2 教育課程及び教授方法
 - 2-3 学修及び授業の支援
 - 2-4 単位認定、卒業・修了認定等
 - 2-5 キャリアガイダンス
 - 2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック
 - 2-7 学生サービス
 - 2-8 教員の配置・職能開発等
 - 2-9 教育環境の整備
- 3班…基準3「経営・管理と財務」
 - 3-1 経営の規律と誠実性
 - 3-2 理事会の機能
 - 3-3 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ
 - 3-4 コミュニケーションとガバナンス
 - 3-5 業務執行体制の機能性
 - 3-6 財務基盤と収支
 - 3-7 会計
- 4班…基準4「自己点検・評価」
 - 4-1 自己点検・評価の適切性
 - 4-2 自己点検・評価の誠実性
 - 4-3 自己点検・評価の有効性
- 5班…全原稿の取りまとめ

7. 教員研究費

- (1) 東京音楽大学教員（専任）個人研究費
 - ① 申請教員数 93人（専任教員124人の75%）
 - ② 申請総額 18,005,482円
 - ③ 申請総額中の図書費総額 4,768,892円（申請総額の26%）
- (2) 文部科学省科学研究費補助金
 - 直接経費 合計250万円、 間接経費 合計75万円 総合計325万円
 - <内訳>
 - ① 本学教員が研究代表者であるもの（新規1件、継続2件）

直接経費 2,200,000円	間接経費 660,000円	合計2,860,000円
-----------------	---------------	--------------
 - ② 本学教員が研究分担者であるもの（継続2件）

直接経費 300,000円	間接経費 90,000円	合計390,000円
---------------	--------------	------------

8. 地域連携

「豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定」（平成19年11月19日）に基づき、豊島区と区内6大学の連携・協働による「としまコミュニティ大学」に参画し、区民の方々を対象とした授業、レッスン等を展開した。



としまコミュニティ大学 レッスン風景

また長野県信濃町、信濃町森林療法研究会「ひとときの会」との連携協定（平成24年2月22日）に基づき、シンフォニーオーケストラの合宿（9月8日）を行う傍ら、学生達は黒姫山麓の癒しの森を体感した。合宿の最終日には、信濃町小中学校吹奏楽部も参加して、オーケストラによるコンサートを行い、アンコールではお客様の手拍子で会場が一体となった。



信濃町小中学校吹奏楽部との合同演奏



信濃町総合体育館にてアンコール

平成25年度の主な地域連携事業は以下のとおり。

- ① としまコミュニティ大学
- ② 区民ひろば回遊音楽キャラバン
- ③ 豊島区庁舎ロビーコンサート（豊島区主催／昭和63年から実施）
- ④ Jロビーコンサート（平成21年度から豊島区後援）
- ⑤ 第3回癒しの森コンサート（長野県信濃町総合体育館）

9. 後援会、校友会等との連携

校友会支部主催演奏会により、本学と後援会、校友会との連携を強化し、絆と信頼を深め、交流・協力体制の一層の充実を図った。後援会からは、在学生が出演する校友会（卒業生の組織）全国各支部主催の演奏会に対し、助成を行っている。

10. 付属図書館

大学における図書館の最も重要な使命は「教育支援」であると考えている。図書館では情報の収集・提供・発信を有効かつ快適に運用するための機能を備えた「情報メディア・センター」の構築を目指している。

大学院修士課程の定員増、及び博士課程の開設に伴い、K館一階に「図書館分室」を設置し、蔵書検索システム（OPAC）、学術情報データベース、検索専用パソコン、ネットワーク環境等を整備した。

「研究紀要」については第37号を発行し、掲載論文は電子化し公開した。

(1) 資料受入等

- ① 1年間の資料受入数

楽譜：	1,731点	和書：	740点	洋書：	377点
録音：	1,063点	映像：	132点	和・洋雑誌：	718点
- ② 池野先生の自筆譜整理、及び貴重資料のマイクロ化・デジタル化。
- ③ 研究室蔵書資料データを図書館システムへ取込み。
- ④ オープンキャンパスや文化祭、館内ロビーにおいて「明清楽関連資料」「初期卒業生の活躍」などの企画展示。
- ⑤ 伊福部昭「明清楽コレクション（資料）目録」の編集・出版。

(2) 情報サービス

- ① 新年度に図書館利用ガイダンスを実施（学部生、院生、付属高校生対象）
- ② 資料検索・文献探索ガイダンスを授業の中で実施。
- ③ 国立国会図書館デジタル化資料の配信サービス、及び国立国会図書館歴史的音源の館内提供を開始。

11. 付属高等学校

授業・行事とも支障なく予定どおり実施した。

特に、12月6日の東京芸術劇場コンサートホールで行ったチャリティーコンサートは、チケットもほぼ完売となり、盛況裏に終了した。

少子化・経済不況・公立高校授業料無償化等の影響を大きく受け、平成25年度の1年生は定員割れ（平成25年5月1日現在61名）となったが、逆に質のよい生徒が集まり、1年生の校外教室では、長野県信濃町の小中学校において音楽鑑賞教室を開催し、好評を博した。

生徒募集については、「ピアノ・創作コース」を今年度より新設したが、入学試験での志願者はいなかった。ピアノと作曲の両方に意欲を持つ受験生の発掘が今後の課題と考える。また、受験生確保の第一歩として、HPのリニューアルを実施した。

受験生に「選ばれる学校」となるために、魅力ある教育内容をめざすと共に、音楽に関心のある多様な受験生の受け皿となるための、斬新な取り組みも必要と考える。

12. 付属幼稚園

平成26年度入園考査（平成25年10月実施）による入園児数は、昨年度の53名から3名増加して56名となった。在園児数も、年少46名、年中37名、年長29名の合計112名と、平成24年度の在園児数88名（平成25年5月1日現在）より25名増加し、運動会や演奏会、その他各種行事も盛況に終えることができた。

音楽大学付属の幼稚園であることを教職員が自覚し、保育方針やカリキュラムにそれを反映させ、保育の更なる充実を図りたい。

なお預かり保育は前年度以上に利用者が増加し、全学年を合わせると一日平均30人余りの利用がある。

13. 付属音楽教室

4歳児～中学3年生を対象に、実技レッスンとソルフェージュ授業を2本柱とした総合的な音楽教育を行い、テクニックだけに偏らず聴く人の心に響く音楽性を育てている。

試験や演奏会では同年代の生徒同士が互いに切磋琢磨することによって、教室全体の更なる向上を目指している。外部のコンクールでも多くの生徒が優秀な成績を収めている。

また、付属幼稚園から付属高等学校への橋渡し役の第一歩として、付属幼稚園からの入室生徒のきめ細かい指導にあたり、優秀な生徒を付属高校へと繋げていくよう配慮している。

さらに、外部の優秀な生徒の獲得を目的として平成21年度から開設した「オープンシステムコース」では、入室生と同様の専門的なソルフェージュ授業に加え、一般のピアノ教室では得られない高度な音楽的指導を行った。このコースの受講者のうち、平成25年度末には1名が入室生へのコース変更をしており、着実に付属高校への進学希望者の獲得に繋がっている。

平成25年度に実施した音楽教室演奏会は次のとおり。

- ・ 学外演奏会：平成25年7月21日（日） トッパンホール
- ・ 学内演奏会：平成25年11月16日（土） 本学100周年記念ホール

14. 付属民族音楽研究所

主としてヨーロッパの音楽を研究、教育している本学に於いて、日本民族として音楽の世界における我々の位置を知る事は極めて重要である。

付属民族音楽研究所では、その見地から本学学生に対して、音楽の民族的多様性を知ってもらうと同時に、個々の音楽スタイルの固有性について、研究や資料を提供している。

学内においては、全学年の学生に対して「ガムラン演奏実技・合奏クラス」「アジア音楽の理論と奏法」を開講し、邦楽・インド音楽・ジャワの伝統音楽等多様な音楽に触れ、異文化音楽を理解する一助とした。

学外に対しては、一般社会人に向けて、大学院と共催で「民族音楽等社会人特別講座」を開講した。また年間を通して、「ガムラン音楽教室」、春期・秋期にはアイヌ音楽をはじめとする様々な民族の音楽に触れる短期の講座を開講した。

<社会人講座>

① 「ガムラン音楽教室」(演奏コース・舞踊コース)

実施期間 平成25年4月～平成26年2月
実施回数 演奏コース35回、舞踊コース30回
実施場所 民族音楽研究所
受講者数：演奏コース32人、舞踊コース22人

② 「ガムラン音楽教室発表会(舞踊・演奏)」

実施日時：平成25年2月22日(土) 14:00～17:00
実施場所：J館スタジオ
来場者数：約200人
※ インドネシア大使が来校し、スピーチを頂いた。

③ 「民族楽器入門講座」

春期：平成25年6月～7月 14講座(97人)
秋期：平成25年11月～12月 14講座(94人)
年間受講者数：191人

④ 「民族音楽等社会人特別講座」 大学院・研究所 共催

実施期間 平成25年4月～平成26年2月
実施回数：個人レッスン25回、座学20回
実施場所：B館4階チェンバロレッスン室、他

15. 財務報告

(1) 決算の特徴

付属高等学校の校舎診断結果に基づき、平成25年7月から9月にかけて、校舎耐震工事を行った。大学キャンパス全体の耐震工事は、平成27年度以降の予定に入っており、教育環境の充実を図るため、全額第2号基本金に組入れを行った。

財務全般で見ると、学生生徒納付金の減少、受験講習会受講生の減少など今後も厳しい状況が予想される。

今年度決算は、基本金の最終組入れ(耐震)を行ったことにより、当期収入はマイナスに推移している。また部門別収支(補助金・受取利息を除く)では、高校部門・幼稚園部門で赤字運営となっている。今後については、健全性を確保した財政運営に努力していきたい。

(2) 財務の概要

- ① 平成25年度資金収支計算書
- ② 平成25年度消費収支計算書
- ③ 貸借対照表(平成26年3月31日現在)
- ④ 財産目録(平成26年3月31日現在)
- ⑤ キャッシュフロー計算書